

第八章 資本金と営業成績

一 資本金の増額

当社は、昭和三十五年七月の増資によって七億八、七五〇万円となつて以後、暫らく増資はしなかつた。

昭和三十七年十月八日臨時取締役会において、新たに七八七万五千株を増資することを決定した。而して昭和三十七年十月三十一日午後五時現在株式名簿にある株主には、所有株式一株に対し新株一株の割合を以て割当てる（割当の結果生ずる一株未満の端数は切捨てる）ことにした。発行価格、払込金額共に一株につき五十円、申込期間は、昭和三十八年一月十日から二十二日まで、払込期日は昭和三十八年二月一日であつた。と同時に資本金の端数調整のため、一株当り二一五円の公募価格を以て有償新株式を三七万五千株発行した。

この増資によって、資本金額は七億八、七五〇万円から十二億円に増加した。

二 営業成績

この章のはじめに記したように、昭和三十六年と四十年の景気の上下は激しかった。しかも技術革新のテンポの早さは、当社の営業品目にも影響した。昭和三十六年九月二十一日の取締役会は、営業品目の増加を決議し、従来

の定款第二条の營業の目的の第五号の次に「工業薬品の製造販売」の一項目を新たに加え、現行第六号中の「写真業・貸室業、飲食營業」の一項目に「古物売買業」を加えることとした。古物売買業を加えたのは、事務機械部において古物事務機械の売買を開始するためであった。

次に、例によってこの五年間の店別販売実績表及び商品別販売実績表を示しておこう。

自昭和三十六年至昭和四十年店別販売実績表

(單位千円)

店名	年度	昭和三十六年	昭和三十七年	昭和三十八年	昭和三十九年	昭和四十年
本社		三、八五四、六五九	四、三五二、五〇一	五、〇三二、五四一	五、五六二、四二八	六、一六四、七七五
名古屋支店		八三八、六五八	九八三、五九五	一、二〇九、四二六	一、三一三、五三九	一、四三三、〇九七
大阪支店		五一五、九〇三	五四九、七〇五	七六二、一三一	八六三、〇一八	八七四、九八〇
京都支店		四一五、七三〇	四七九、六八六	五三四、九九一	五七九、五七九	六二六、六七一
神戸支店		三〇二、五九八	三五五、六〇三	四〇八、七〇九	四三六、八〇二	四六四、一八〇
岡山出張所		一五三、九八四	一六七、二一九	二〇二、八七七	二二五、〇八二	二五七、六五〇
広島支店		一二七、〇三九	二〇〇、六九〇	二六五、五九九	三〇一、〇七八	三四一、八四七
福岡支店		四七一、二三〇	五四五、一三四	六三〇、〇六九	七二三、八七五	七五八、六四七
仙台支店		四三八、九七八	五一五、三二八	五九八、三六八	六三五、〇五七	六六一、二三二

札幌支店	四一八、〇四九	五〇四、三五八	六二七、三七七	六六六、三五九	七二四、〇八五
合計	七、五三六、八二八	八、六五三、八一九	一〇、二七二、〇八八	一一、三〇六、八一七	一二、三〇七、一六四

自昭和三十六年至昭和四十年商品別販売実績表

(単位千円)

品名	年度	
	昭和三十六年	昭和三十七年
書籍	三、七九二、二八六	四、六四五、〇五一
文具事務機械類	二、四七六、三八八	二、五四八、五〇三
洋品	九二六、九六五	一、〇九九、八八七
その他	三四一、一八九	三六〇、三七八
合計	七、五三六、八二八	八、六五三、八一九
		一〇、二七二、〇八八
		一一、三〇六、八一七
		一二、三〇七、一六四

而して、この五年間の純益は、次表の如くであった。順調・停頓・不振といろいろの波はあったが、毎年、年率一割六分の配当をなし得たし、昭和三十九年は創立九十五周年に当たったので「九十五周年記念」として年二分の増配を加へ、年一割八分の配当をすることが出来た。社員に対しても、期末手当で記念増給を行つた。

自昭和三十六年至昭和四十年純利益表

(單位円)

年度別	期別		計
	前 期	後 期	
昭和三十六年度	二〇六、四八二、一四一	二二五、六六八、〇九一	四三二、一五〇、二三二
昭和三十七年度	二六五、一九〇、九九七	二七八、七四六、三〇五	五四三、九三七、三〇二
昭和三十八年度	三五三、〇一三、六七二	二〇一、二二三、二九九	五五四、二三六、九七一
昭和三十九年度	二四〇、四六九、三一二	二二六、四二四、三八〇	四六六、八九三、六九二
昭和四十年度	二四八、三四三、九五九	二三三、四七三、三五四	四八一、八一七、三一三